



会 員 報

第46号 令和6年3月22日発行
(公財)日本ソフトテニス連盟



(公財)日本ソフトテニス連盟
会長 安道光二

ごあいさつ

会員報第46号を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。人々の生活がコロナ以前に戻りつつある中、喜ばしい話題としては、昨年開催の第19回アジア競技大会での素晴らしい結果が挙げられます。対抗戦(団体)での男女金メダル、ミックスダブルスも金・銀メダルを独占、さらにシングルスでも男子金・女子銀を獲得という華々しい活躍でした。今年9月の第17回世界選手権大会でも益々の活躍を期待するとともに、皆様からのご声援を賜りますようお願い申し上げます。

決定!

第17回 世界選手権日本代表予選会の様子を

YouTubeで ライブ配信!



2024年4月27日(土)・28日(日)に仙台市青葉山公園庭球場で開催される「第17回世界選手権日本代表予選会」をYouTubeでライブ配信します！SNSから皆様の熱いご声援をよろしくお願いいたします。

YouTube公式チャンネルはこちら → <http://www.youtube.com/@user-gb4om2cf5t>



会員登録に関する依頼事項

①会員登録のスケジュールについて

令和5年度の会員登録は、令和6年3月21日(木)0時で終了となります。

②令和6年度会員登録について

令和6年度分の会員登録手続きについては、必ず「令和6年4月1日以降」に、ご登録くださいようお願いいたします。令和6年3月に登録されると令和5年度扱いとなります。誤って手続きされた場合、返金はできかねますのでご注意ください。

③団体情報の更新

システムに登録されている団体情報は、常に最新状態に更新していただきますようご協力をお願いいたします。

④登録内容の確認について

会員登録時に登録する名前やフリガナ、生年月日は、大会参加資格判定等の基礎データとなります。必ず正しい情報でご登録いただきますよう、お願いいたします。

⑤重複登録会員の取扱い

同一の会員が重複してシステムに登録され、会員番号も複数お持ちの場合があります。重複登録してしまったことがわかっている会員については、「会員番号の中で、最も新しいもの(最も大きい番号)」を使用してください。

ただし、審判員、技術等級の資格が反映されていた場合は、その会員番号を使用してください。

⑥団体管理者変更に伴う「ログイン用メールアドレス・パスワード」の取扱い

中学、高校で顧問の先生の異動等により団体管理者が変更となる場合は必ず次の管理者の方へ管理者権限の付与をお願いいたします。引き続き同じメールアドレスを利用される場合は、次の管理者に必ず引継ぎしていただき、少しでもスムーズにログインできるようご協力をお願い申し上げます。

⑦会員登録に必要な各資料(システムマニュアル等)について

常に最新の資料をホームページに掲載しておりますので、必要のある場合はご参照ください。

日本ソフトテニス連盟ホームページ <https://www.jsta.or.jp/>



会員登録料に関する 使途概要について(令和4年度)

会員登録料は、**競技性の向上** **国際性の向上** **大衆化の促進** **広報活動の強化** 等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、加盟団体(各都道府県、日本学生連盟、高体連、中体連)への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。登録料を原資とする事業は概ね次のとおりです。

競技性の向上

- ・選手強化事業(強化合宿、国際大会派遣等)
- ・競技者育成プログラム推進費
- ・大会開催地・地域大会への補助、大会表彰

国際性の向上

- ・国際普及活動
- ・国際連盟、アジア連盟との連携

大衆化の促進

- ・地域グループ育成費
(各都道府県へ一般登録料の20%還元)
- ・ジュニア育成費
(各都道府県へ小・中・高・高専登録料の還元)
- ・都道府県連盟事業への補助

広報活動の強化

- ・大会情報の発信
- ・動画配信
- ・ホームページ

傷害補償給付金

- ・給付金および関連事務費

その他

- ・日本学生連盟への還元
- ・高体連への還元
- ・中体連への還元
- ・各種積立金(普及振興事業等)
- ・会員登録事務費(手数料負担等)
- ・事務所管理費

競技性の向上	27.0%
国際性の向上	1.1%
大衆化の促進	20.5%
広報活動の強化	18.0%
傷害補償制度	0.4%
会員登録関係費	15.0%
その他	18.0%

使途概要

令和5年度 臨時評議員会 【議事録】

【Ⅰ】日時	令和6年2月11日(日) 13時00分 開会
【Ⅱ】会場	日本ソフトテニス連盟事務局
【Ⅲ】出席者	評議員:45名〔欠席:5名〕 理事:22名〔欠席:1名〕 監事:3名

1 開会

定款第23条第1項および第2項により、評議員の定数50名に対し、出席者が過半数を超え定数に達しており、評議員会が成立すると報告。リモート参加者とは映像や音声により意思疎通が図れる状況であると説明。

2 あいさつ

安道光二会長より、日頃から日本連盟の活動に対する理解と協力に感謝が述べられた。重要案件である予算編成と事業計画をご審議いただくにあたり、収入の減少により財政が圧迫されてきているこの難局を令和5年度は費用削減により乗り越えたこと、しかし今後も収入は減少傾向にあるため評議員の皆さんの力を借りながら考えていくことが必要なことを述べられた。事業に反映できるようなご意見をいただき、会議のスムーズな進行にご協力いただきたいとの挨拶があった。

3 議長選出および議事録署名人の指名

定款第20条第2項により、出席した評議員の中から互選により議長は選任されるとの説明。千葉県の高橋浩評議員より栃木県の木所一典評議員の推薦があり、異議はなく、議長に選任。木所一典議長より定款第24条第2項により議事録署名人が指名され、神奈川県鈴木敏雄評議員と、森田賢二理事が署名人となった。

4 議決事項

第1号議案 令和5年度第一次補正予算書(案)について

前年度繰越金の反映、今年度助成金の内示や年度内事業の精査により、収入・支出とも補正を行い、当初予算に比して積立金の取り崩しを大幅に減らすことができた。なお、決算状況によっては、積立金を計上する可能性があるため、このことについてご了承いただきたい。

国際会計、傷害補償制度会計は当初予算どおりとし、補正は行わない。

【第1号議案の承認】

議長より第1号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第2号議案 令和6年度事業計画書(案)について
本連盟の公益事業は、普及振興、競技力向上、国際振興の3つを柱とし、これに基づいて事業を計画している。また、これらの本連盟の公益事業を支えるべく、組織としての基盤強化は必須であり、「各事業を推進するための組織と財政の強化、共通施策」として整理している。各委員会・部会の計画を理事会にて精査して作成した。

【第2号議案質疑応答】

議長より第2号議案の質疑等について促された。

〔質問〕

令和5年度事業の報告を踏まえて令和6年度事業計画を立てるべきと考えるが、令和5年度事業の報告との比較はできないのか。

〔回答〕

事業年度は4月～3月であり、事業の終了は3月なので、事業報告は6月の定時評議員会となるのでご理解いただきたい。

【第2号議案の承認】

議長より第2号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第3号議案 令和6年度収支予算書(案)について
収入および支出とも、近年の傾向や令和6年度事業計画に沿って見込み、計上をした。

令和6年度は本連盟創設100周年の年にあたり、記念事業の関係費用を令和6年度に限り計上している。国際活動においては海外組織の活動も活発化することが予想されるが、現時点では確定していないものも多く、実施状況を精査しながら必要に応じて補正を検討する。



令和5年度 臨時評議員会 【議事録】

このことは他の事業においても同様で、収支の状況に注視し、必要な場合には補正にて対応する。また、前期繰越によっては積立金の取り崩しを減らすことができるが、このことについては代表理事、専務理事、常務理事を中心として検討し、理事会の承認を得て慎重に対応していく。

【第3号議案質疑応答】

議長より第3号議案の質疑等について促された。

会費収入および会員登録関係費について

〔質問〕

会費収入が前年度より減となっているが、その根拠をお願いしたい。

〔回答〕

コロナ禍以前には既に会員登録数の減少が見られていた。コロナ後の会員登録が見込みにくくなっているが、ここは具体的にどの区分がどう減るといふ積算をしているわけではなく、減少傾向を反映したものとなっている。

〔質問〕

会員登録関係費についても根拠を説明してもらいたい。

〔回答〕

会費納入の際の振込手数料は日本連盟負担としている。この関係費の大部分は、会費納入の際の手数料負担を予測して計上している。

会員登録関係費について

〔質問〕

会費納入の際の手数料負担額を経年で考えると、その予算で新しいシステムを開発できるのではないか。

〔回答〕

現在のシステムについては検討が必要ではないかと担当委員会の中では議論されており、理事会でも検討課題となっているので、今のご意見も検討材料のひとつとさせていただきたい。

【第3号議案の承認】

議長より第3号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

第4号議案 評議員の変更について

愛媛県連盟より評議員変更の申し出があったもの。

【第4号議案の承認】

議長より第4号議案について諮られ、賛成多数により承認された。

5 報告事項(業務執行状況、他)

(1) 役員選出規程の改定について

役員選出規程の改定の理由は、スポーツ団体ガバナンスコードの原則に示されている、適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備するというところにある。

1点目は、選出する理事の区分を、地区等選出理事と会長推薦理事の2区分とし、外部理事は会長推薦理事の中にも含めることとするもの。2点目は、外部理事および女性理事の比率については規定せずに運用の中で取り扱っていくということ。3点目、これが各評議員や各ブロックにも影響してくるものになるが、地区等選出理事の推薦は現行では8つのブロックから推薦することができるが、それを東日本および西日本の2地域に再編をするものである。4点目として、選考委員会を役員候補者選考委員会に名称を変更し、その中に有識者外部委員を配置するなど多様性を確保するというところ。施行日については、令和6年4月1日からとなる。

今回、これらの改正をさせていただき、次期の役員候補者の選考、それから構成を検討していくということで理事会に提案し決定したので、評議員会に報告させていただく。

(2) 令和5年度表彰者名簿について(総務委員会)
令和5年度の表彰者について報告があった。

(3) 令和5年度ランキングについて(競技委員会)
令和5年度の総合ランキングについて報告があった。

(4) 全日本小学生選手権大会参加選手への補助について(競技委員会)

全日本小学生選手権大会の参加選手旅費補助は、第10回までは他団体の補助金を受けており、第11回以降は日本連盟の独自補助として継続してきた。既に大会は40回を数え、当初掲げた推進という目的は達していると判断したが、各都道府県連盟の対応と対策のため、令和6年度および令和7年度は一律10万円の補助とすることにした。この補助については令和7年度大会をもって終了とする。

(5) 競技規則の一部改訂について(競技委員会)
ネット、ラケット、ボールについては大会要項や着用基準などによって公認事業者の優位性を保っているが、ストリングについては記載がなく、優位性が保たれていなかった。ハンドブック掲載の競技規則を改定することによって、その優位性を確保したい。施行日は、令和6年4月1日となる。

令和5年度 臨時評議員会 【議事録】

変更内容については日本連盟のホームページで掲載する。ハンドブックの最新版については、令和7年に改訂版を発行する予定のため、今回の改定内容の記載はその時に行う。

(6) 令和6年度大会要項について(競技委員会)

①令和6年度大会について

大会要項は近日中にホームページに掲載する。従来、世界選手権大会日本代表予選会、全日本シングルス選手権大会、全日本ミックスダブルス選手権大会の出場資格に前年度の東日本・西日本選手権大会実績を対象としていた。令和6年度大会に限り、この3大会に関しては東日本・西日本の実績については除外する。令和5年度の東日本選手権大会が中止であったため、東西を同等に扱うための措置である。また、大会要項においてフェイスマスク着用は認めないと明記した。次に、前述した公認メーカーのストリングを使用することが必須であるとして参加の条件に追加している。

日本スポーツマスターズにおいては、監督がソフトテニスコーチ1~4のいずれかを有していることが必須となる。試合方法についても変更となり、大会2日目の順位別トーナメントは初戦から5対戦中の3対戦先取により勝敗を決めることとなる。

また、各大会において競技上の注意を開会式で発表しているが、共通項目も多いため、令和6年度からは大会要項に共通事項を掲載する。

②公認事業者について

ラケットの公認事業者として落合コーポレーションが新規公認となった。ブランド名はカワサキとなる。シューズの公認事業者、住友ゴムが令和5年度末にて退会となる。1年間は使用を認めることとする。

(7) 2級審判員検定会・研修会の統一試験問題について(審判委員会)

審判委員会で統一した試験問題を協議して決定したので、後日加盟団体の皆様には周知する。

(8) ジュニア審判マニュアルのホームページ掲載および無料ダウンロード化について(審判委員会)

広く普及に役立ててもらうにはホームページに掲載しダウンロードして活用できるようにすることが有効であると考え、今後は冊子の作成はせず、ホームページ掲載のものを活用していただくこととする。

(9) スタートコーチの講師養成について(指導者育成委員会)

スタートコーチ養成のための講師育成として、2月25日(日)にオンラインで研修会を実施するので、各加盟団体には案内を発信する。

(10) 競技者育成プログラム アンダー20カテゴリーの変更について(強化委員会/競技者育成プログラム部会)

アンダー20について、活動年齢と名称を変更する。変更後の名称はアンダー21とし、18歳から22歳を対象とする。変更理由としては、現行制度のアンダー20では高校3年生の1年間だけの強化という傾向が強いのこと、大学3年生以上や社会人選手が埋もれてしまっていることがあげられる。Step-1からStep-4では選考を行わず、選考基準となる大会の上位者より推薦とする。選手がより輝ける強化体制を目指していくのでご理解をいただきたい。

[質問]

Step-1~4での選考を行わないとのことだが、Step-3とStep-4との関連はどうなるのか。

[回答]

アンダー21のみStep-1~4での選考を行わないということで、アンダー14と17は現行通りの選考となる。

(11) 運動部活動地域移行推進計画について(運動部活動地域移行推進委員会)

ソフトテニス新時代を創出するためにこの計画は立てられており、この地域移行は歴史的な変換になると考えている。推進計画の前提として、令和8年度から中学校の運動部活動が地域クラブ活動となるということに記載している。この令和8年度という年度はスポーツ庁進めている計画推進期間の最終年度にあたる。大会については、外部指導者が顧問となるチームと地域クラブチームが参加するという大会を念頭に置いて計画を策定している。ソフトテニスに取り組んでいる中学生でも約7割の中学生が楽しんでソフトテニスを行いたいと、そして3割の方は競技力を向上させたいというニーズがあるので、それら双方のニーズに応える形で大会を検討していきたいと考えている。令和6年度予算の中でも、それに対する補助事業として、1都道府県当たり上限20万円を予算計上しているので、各都道府県連盟は積極的に取り組んでいただきたい。

(12) 令和6年度定時評議員会の開催日程について

令和6年度定時評議員会について、次のとおり予定している。
令和6年6月23日(日) 13:00 (東京都)

6 支部提案・質問等

(1) 都道府県対抗中学生大会の今後の開催日程・曜日について(山形県連盟)

令和5年度 臨時評議員会 【議事録】

〔山形県連盟より〕

都道府県対抗全日本中学生大会について、中学校の先生方の働き方改革の問題で、土日の事業において現場に入りづらくなってきている。一般の指導者の中から監督・コーチを選任しなければならないため、できる限り一般の指導者が休みを取りやすい土日を中心に大会日程を設定していただきたい。

〔日本連盟より〕

都道府県対抗全日本中学生大会については、今の山形県連盟からのご提案以外にも、全国のクラブチームの大会に変更してはどうかという意見がきている。しかしこの大会は伊勢市と伊勢市教育委員会との共催大会であり、日本連盟だけで決められるものではない。中体連の動きも含め、伊勢市、伊勢市教育委員会、三重県ソフトテニス連盟と協議していきたい。

(2) 全日本小学生選手権大会について(兵庫県連盟)

〔兵庫県連盟より〕

令和5年度の全日本小学生選手権は皆様のご協力により無事に終了することができ、この場で御礼を申し上げたい。そしてこの大会に関していくつか報告させていただく。1点目は、残念ながら一部の保護者等のマナーが非常に悪かったこと。相手選手を追い詰めるような言動や審判の判定にクレームをつける場面も見られた。相手を罵り合うような応援は非常に良くないと感じた。次に、今回の会場ではゴミを持ち帰ることがルールであったが、トイレ等に大量に廃棄していった人が複数おり、これは施設側からも指摘された。

また、こういった大会開催の際には、開催地と日本連盟の連携がスムーズにいくようにしたいこと、そして地域差もあるが予算についても考慮していただきたいので、今後の参考にさせていただきたい。

〔日本連盟より〕

検討すべきことが多々あると思うので、打ち合わせを充分にしていきたいと思っている。保護者の方のマナーについてだが、日本連盟の小学生部会からは、かなり良くなったという報告を受けていた。しかしそのような状況もあったということなので、この3月の全国小学生大会において注視していきたい。全国小学生大会では、今回、試験的に個人戦ベンチコーチを復活させるので、その効果も見していきたい。

7 その他

(1) 会員登録料の見直しについて

予算について、令和5年度でかなり支出を削減したが、やはり財源が少ないということが影響している。ひとつの方策として、会員登録料をそろそろ値上げしなくてはならないのではないかと考えるもある。令和4年度において収支が逆転する状況となり、担当役員で検討し、事業の精査による支出減と積立金の取り崩しでバランスを保つという策を講じたが、令和6年度においても収支のバランスは取れておらず、これは根本的な収入構造の見直しをする必要がある。会費設定についても意見が出ているが、不透明な状態で値上げをすることは避けねばならないので、納得性はきっちり守っていかないといけない。一律に会費を値上げするというわけではないが、見直しの検討を始めるということを報告させていただく。

事業支出についても、皆さんからの意見を収集して、無駄を排除していきたい。今の事業でやめられるものはないのか、聖域なき構造改革も必要ではないか。財務委員会としてはそういった観点で進めていきたい。

(2) 大会における救護体制について

各大会において、可能な限り、救護班に医師など専門の方を配置していただきたい。日本連盟よりトレーナーを派遣している大会もあるので、併せて救護体制の整備を考えていきたい。

(3) 連盟創立100周年について

令和6年度は日本連盟創立100周年となり、記念事業を検討している。記念式典については、今のところ令和7年2月を予定している。

(4) 全国中学校大会について

評議員より全国中学校大会の参加数の削減というのが新聞報道にあり、日本連盟と中体連との情報交換など緊密にさせていただきたいとの意見があった。日本連盟より、中体連と連携していくこと、何か新しい情報があれば、中体連側からも情報共有をお願いしていくとの回答があった。

9 閉会

リモートによる会議は終始異常なく、全ての報告事項および議決事項が終了した。木所一典議長より、円滑に会議が進行したことへの謝辞が述べられた。星野博副会長より、議事進行にご協力いただいたことへの感謝が述べられ、閉会の挨拶となった。

以上

令和5年度 日本スポーツ振興センター 助成事業一覧

下記の事業については、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受けて実施いたしました。

(単位：円)

基金助成		くじ助成	
事業名	助成額 (内示)	事業名	助成額 (内示)
JOCジュニアオリンピック大会 第30回全日本ジュニア選手権大会	1,255,000	アウトリーチ (①全日本小学生②全日本選手権大会)	914,000
		競技者育成プログラム (Step1～Step3)	43,253,000
第78回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本選手権大会	4,288,000	ドーピング検査	250,000
		計	44,417,000



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター

スポーツくじ

